

WEEKLY SIGNAL

2019年12月13日(金) 1504号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	12/16(月)	12/17(火)	12/18(水)	12/19(木)	12/20(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	△ 1,600	△ 3,000	△ 3,000	△ 4,000	△ 4,000
財政他	+ 1,600	+ 4,000	△ 6,000	+ 2,000	+ 82,000
資金需給	ト ン	+ 1,000	△ 9,000	△ 2,000	+ 78,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(個人向け) 国債償還(2年)		国債発行(20年)		国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債償還(5年・10年・個人向け) 利払い 交付税特会借入・償還
オペ期日	国債補完供給 + 100 CP買入 △ 500				被災地支援 △ 100
オペスタート	国債買入 + 11,900 ETF買入 + 100				
(日本)			日銀金融政策決定会合1日目 貿易収支(11月)	日銀金融政策決定会合2日目 黒田総裁の記者会見	全国CPI(前年比)(11月)
(海外)	米 NY連銀製造業景況指数(12月) ユーロ圏 総合PMI(12月) ユーロ圏 製造業PMI(12月) ユーロ圏 サービス業PMI(12月)	米 住宅着工件数(前月比)(11月) 米 鉱工業生産(11月)	米 シカゴ連銀総裁講演 ユーロ圏 CPI(11月)	米 大統領選挙 民主党指名争う 候補者による討論会(ロサンゼルス) 米 経常収支(7-9月) 米 フライデルフィア連銀製造業景況指数 (12月) 米 新規失業保険申請件数 (12月14日終了週) 英 英中銀政策金利発表	米 GDP(7-9月 確定値) 英 GDP(7-9月 確定値)

<インターバンク市場>

<インターバンク>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

日銀当座預金残高は週初、392兆6,300億円から始まり、12日には国債発行を主因に389兆5,600億円まで減少した。13日には年金定時払いがあり、396兆3,200億円を越えた。
無担保コールON物は、先週に引き続き、日銀当座預金の基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズが強く、堅調な地合いで推移した。同金利は週を通して0.009%~△0.008%で推移した。12月9日~11日、13日の同加重平均金利△0.008%は、2016年4月14日(△0.005%)以来約3年9か月ぶりである。ターム物は主に16日スタート年内エンドの1~2W物が取引され△0.030~△0.020%を中心とした出合が見られた。日本銀行は9日、当座預金のうちマクロ加算残高の算出に用いる基準比率について、12月から2月の積み期間を31.5%にするを発表した(9月~11月積み期間は37.0%)。来週の主な予定は金融政策決定会合(18~19日)、黒田日本銀行総裁定例記者会見(19日)、海外では、英中央銀行金利発表(19日)や米GDP(7-9月)確定値(20日)がある。

<オープン市場>

<C P>

CP3M(a-1+)	△0.003 ~ 0.000
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約9,600億円で、週間償還額(約5,800億円)を上回り発行超となった。連日、複数の業態からの大型発行が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は、先週末の21兆7,371億円から12日時点では約22兆315億円となった模様。発行レートは、年内償還物が若干強含みとなり、年越え物は引き続きマイナス~0%近辺の出合いであった。13日に、CP等買入れオペが予定より500億円減額され、2,500億円でオフアールされた。結果は、按分レート△0.001%・平均落札レート0.000%と、前回(△0.001%・0.005%)比で、平均落札は低下した。
来週の償還総額(12/16~12/20)は、1兆2,400億円程度となっている。四半期末決算での有利子負債の圧縮ニーズもあり、償還超が予想される。発行レートは、年越し物については引き続き浅いマイナスから0%近辺でのレンジと思われる。

<TDB>

9日のTDB6M物875回債(6/10償還)入札結果は、最高落札利回り△0.0996%(前回債△0.1462%)、平均落札利回り△0.1036%(同△0.1563%)となった。また13日の3M物876回債(3/23償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.0986%(前回債△0.1154%)、平均落札利回り△0.1187%(同△0.1284%)となった。そのほかセカンダリーでは、3M874回債(3/16償還)が週初9日に△0.105%で出合いが見られ、週末13日には△0.145%~△0.15%のレンジで取引された。

<レポ>

足許GC取引は、週初△0.03%~△0.01%での取引からスタート。以降積み最終日までレートが高止まりする展開が続く、0%近辺での取引も行われた。新積み期間となる16日受け渡しの取引は、△0.10%~△0.085%で取引された。SC取引では20年169回債、170回債の引き合いが多く見られ、169回債は週を通して△0.1%台前半~△0.2%台前半、170回債は△0.1%台後半~△0.2%台後半で取引された。他2年403~407回債、5年137~141回債、10年336~356回債、20年164~168回債、30年59・62~64回債、40年9~12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。